

# 東南アジア



## 1 農・畜産業の概況

アジア開発銀行資料によると、アセアン10カ国のうち、シンガポールとブルネイは、GDPに占める農業の割合が1%以下と低い一方、マレーシア、タイ、インドネシア、フィリピンは、10%~14%台となっている。ベトナムは22.1%となっているが、製造業の発展により、これらアセアン先進4カ国（マレーシア、タイ、インドネシア、フィリピン）の状況に近づきつつある。先進4カ国にベトナムを加えた5カ国では、都市と農村の社会格差が顕著になる一方で、農村が失業者の緩衝機能を果たしているといわれている。

また、これら5カ国では、米(コメ)などの主要作物の価格が政策的に低く抑えられているため、農業分野の生産額が高くならないという特徴も有している。上記以外の3カ国のGDPに占める農業の割合については、カンボジアが32.5%、ラオスが32.1%、ミャンマーは43.5%(2006年)となっている。政情不安が長引いたこれら3カ国では、ほかの産業の発展が遅れているため相対的に農業の比重が高いが、GDPに占める農業の割合が、程度の差はあるものの低下傾向で推移しており、政情の安定化や経済の発展に伴って農業の比重が低下してきている。

ただし、2008年には各国のGDPに占める農業生産額の割合が前年に比べ上昇しているが、これは同年の米の世界価格が高騰したためとみられる。

マレーシアは、油ヤシ、ゴムなど永年性作物の栽培が多く、油ヤシの下草などを利用した畜産物の生産拡大の可能性はあるものの、将来的に食用作物栽培が増え、飼料資源が拡大するとは考えにくい。一方、フィリピンは、トウモロコシ、米などの食用作物が中心となっている。アセアン諸國中、ベトナム、タイ、ミャンマーは米の輸出国である。

畜産物の生産量は、食習慣、宗教、農業の形態などを反映して、各国ごとに畜種の重要度が異なっているため、国ごとに大きな差がある。

インドは、GDPに占める農業の割合は17.6%ではあるが、非都市人口が人口の70.8%を占め、農業労働力人口が全労働力人口の約56.1%(2005年度)を占め、農業が国民生活上重要な産業となっている。

(データは断りのない限り2008年の数字)

表1 アセアン諸国・インドの主要穀物および畜産物生産量

(単位:千トン)

国	年	米	トウモロコシ	牛肉	豚肉	鶏肉	鳥卵	生乳
マレーシア	2004	2,264	72	26	203	825	442	46
	2005	2,314	75	26	200	860	453	46
	2006	2,187	80	27	217	922	464	46
	2007	2,375	83	27	200	931	476	47
	2008	2,384	83	27	195	931	476	47
タイ	2004	28,538	4,521	265	677	878	698	843
	2005	30,292	4,216	311	669	950	779	888
	2006	29,642	4,021	291	865	962	823	826
	2007	32,099	3,966	296	880	986	849	822
	2008	30,467	4,058	298	864	1,019	872	827
インドネシア	2004	54,088	11,505	488	484	1,191	1,107	851
	2005	54,151	12,837	397	550	1,126	1,052	850
	2006	54,455	11,899	440	589	1,260	1,204	944
	2007	57,157	13,620	381	597	1,296	1,382	924
	2008	60,251	16,656	396	637	1,358	1,485	931
フィリピン	2004	14,497	5,413	259	1,366	658	539	12
	2005	14,603	5,253	250	1,415	650	552	13
	2006	15,327	6,082	252	1,565	658	552	13
	2007	16,240	6,737	288	1,617	662	543	13
	2008	16,816	6,928	279	1,606	741	622	13
ベトナム	2004	36,149	3,431	221	2,012	316	197	182
	2005	35,833	3,787	245	2,288	322	197	229
	2006	35,850	3,855	263	2,505	344	199	247
	2007	35,943	4,303	316	2,553	359	225	266
	2008	38,725	4,531	316	2,553	359	225	272
ラオス	2004	2,529	204	41	37	15	13	6
	2005	2,568	373	40	39	15	13	6
	2006	2,664	450	41	43	16	14	7
	2007	2,710	691	41	46	16	14	7
	2008	2,710	1,108	45	54	17	15	8
カンボジア	2004	4,170	257	64	123	18	17	21
	2005	5,986	248	67	135	17	17	22
	2006	6,264	377	70	139	17	17	23
	2007	6,727	523	71	120	18	17	23
	2008	7,175	612	73	110	19	17	24
ミャンマー	2004	24,751	784	115	261	457	171	905
	2005	27,684	918	129	328	561	201	989
	2006	30,924	1,032	147	370	650	225	1,095
	2007	31,450	1,114	159	411	726	247	1,216
	2008	30,500	1,114	171	463	726	247	1,216
インド	2004	124,697	14,172	2,828	497	1,650	2,486	91,059
	2005	137,690	14,710	2,835	497	1,900	2,543	95,619
	2006	139,137	15,097	2,788	497	2,000	2,786	99,348
	2007	144,570	18,955	2,781	497	2,240	2,930	103,284
	2008	148,260	19,290	2,755	497	2,490	2,740	109,000

資料:FAOSTAT

注1:牛肉は水牛肉を、鳥卵は鶏卵以外の鳥の卵を、生乳は水牛、めん羊・ヤギの乳を含む。

2:トウモロコシは青刈トウモロコシを含む。

## 2. 東南アジア諸国の畜産の動向

### (1) 酪農・乳業

アセアン諸国では、一般に牛乳・乳製品は、伝統的食文化としての位置付けが低く、また、気候条件が酪農にあまり適していないことや良質な飼料を得にくいことなどもあり、酪農・乳業は欧米諸国に比べて盛んではなかった。従来から、乳製品の主体は全粉乳などの粉乳類か、缶入り加糖れん乳であったが、冷蔵施設の普及や経済発展に伴い、特に都市部およびその周辺では飲用乳製品の需要も高まりつつある。

アセアン諸国では、各国とも牛乳・乳製品の自給にはほど遠い現状にあるが、生乳生産、工場インフラ、地理的条件などを総合的に考慮すると、タイやベトナムは将来的には、輸入乳製品からの還元乳の製造を含め、インドシナ半島諸国の牛乳・乳製品供給基地になりうると思われる。また、2億を超える人口を擁し、ジャワ島を中心に近年急速な経済発展を遂げているインドネシアにおける需要の伸びも期待されている。

アセアン諸国では、乳脂肪の一部または全部を価格の安いパーム油などの植物性油脂で置き換えた、国際規格上は乳製品表示を行ない得ない模擬乳製品が普及しており、これに加えて、各国統計上の取り扱いもあいまいであることから、乳製品の需給動向の正確な把握は困難なものとなっている。

#### ① 生乳生産動向

2008年の乳牛の飼養頭数は、インドネシア、フィリピン、タイ、マレーシア(2007年、半島部のみ)でともに増加した。

インドネシアの乳牛飼養頭数はタイに次ぐ規模であり、2008年の飼養頭数は前年比22%増の45万8千頭となっている。同国における乳用牛は、ほとんどがジャカルタなど大消費地に隣接するジャワ島の冷涼な気候の山岳地域で

飼養されている。同国では、政府が乳用牛増頭計画を掲げており、また豪州からの雌牛の輸入も行われているものの、遺伝的能力の高い雌牛がまだ十分ではなく、零細な経営が多くを占めているという課題もある。同年の生乳生産量は、同14%増の約64万7千トンとなっている。

マレーシアの乳用牛は大半が半島部で飼養されており、2007年の乳用牛飼養頭数(半島部)は前年比2%増の約2万9千頭となっている。飼養頭数が多いのは、シンガポールに国境を接するジョホール州、首都クアラルンプール近郊のスランゴール州、北西部のペラク州などである。また、同国の乳用牛はホルスタインとの交雑種が過半を占め、他はインド原産種となっている。同年の生乳生産量は、同16%増の5万3千トンとなっている。能力が低いインド原産種はおおむね減少傾向で推移しており、全体の飼養頭数が変化しないなか生産量が大幅に増加しているのはこのためもあると考えられる。同国は歴史的に天然ゴムや油ヤシのプランテーションのための土地開発が多く、反すう家畜のための飼料基盤の不足から政府の振興策ははかどっていない。

フィリピンの乳用牛飼養頭数は、前年比15%増の約1万4千頭となっており、飼養頭数は増加傾向で推移している。同国では、乳用水牛の飼養頭数が約1万3千頭と乳用牛の飼養頭数とほぼ同数である。生乳生産量は、同3%増の1万4千トンで牛乳のほか水牛乳とヤギ乳も含まれる。生乳生産量に占める牛乳の割合は約6割で、残りの4割は水牛乳とヤギ乳とみられている。同国の生乳換算による自給率は1%程度となっており、消費量のほぼ全量が輸入品および輸入品を原料とした加工品となっている。

タイの乳用牛飼養頭数は前年比4%減の約47万頭であった。99年以降、2005年までの飼養頭数は増加傾向で推移していたが、2006年は原油高などによる酪農家戸数の減少に伴って、かなり大きく減少し、その後伸び悩んでいる。同年の生乳工場における処理量(表4の国内生産量)は同

15%増の78万6千トンで、このうちの約9割は飲用乳に加工され、残りはヨーグルトなどに加工されている。2001年よ

り学校供給用牛乳に国産生乳の100%使用を義務付けるなどの酪農振興施策を実施している。

表2 乳用牛の飼養頭数と生乳生産動向

(単位:千頭、千トン、%)

国名	飼養頭数	前年比	生乳生産量	前年比
インドネシア(2008年)	457.6	122	647	114
マレーシア(2007年)	28.8	102	53	116
フィリピン(2008年)	13.9	115	14	103
タイ(2008年)	469.9	96	786	115

資料:各国政府統計

注1:マレーシアの飼養頭数は半島部のみ(サバ、サラワク州含まず)。

2:マレーシアの生乳生産量は、1リットル=1.03kgで重量換算。

表3 牛乳・乳製品需給

(単位:生乳換算、千トン(マレーシアは百万リットル)、kg)

国名	国内生産量	輸入量	国内消費量	輸出量	1人当たり消費量
インドネシア(2008年)	647	2,295	2,258	684	6.9
マレーシア(2006年)	45	1,506	976	378	36.6
フィリピン(2008年)	14	1,619	1,334	299	14.7
タイ(2008年)	786	871	1,332	325	21.0(13.6)

資料:各国政府統計

注1:インドネシアおよびタイの国内消費量は、「国内生産量+輸入量-輸出量」で算出。

2:フィリピンは水牛・ヤギ乳を含む。

3:タイの( )は乳製品。

4:マレーシアの輸出量にはサラワク州を含まず。

## ②牛乳・乳製品の需給動向

生乳換算で見た場合、牛乳・乳製品の輸入量が国内消費量に占める割合は、アセアン諸国では一般的に高く、半分以上を占めている。東南アジアにおける輸入乳製品の中心となるのは粉乳であり、そのまま小分けして販売されるほか、LL牛乳や缶入り加糖れん乳なども、全粉乳や脱脂粉乳から還元製造されるものが多い。

インドネシアにおける牛乳・乳製品の1人当たり消費量は、前年比38%減の6.9キログラムで、消費量は少ない。

マレーシアの2006年における牛乳・乳製品の1人当たり消費量は、36.6キログラムでアセアン諸国内で最大となっている。また、地域別では半島部における消費量が多く、同45.5キログラムとなっている。同国は、牛乳・乳製品の輸出量が約3億8千万リットルとなっており国内生産量の約8倍となっているが、ほとんどが調製品および加工食品に含まれる乳成分である。

フィリピンにおける牛乳・乳製品の1人当たり消費量は、前年比11%減の14.7キログラムとなった。同国の生乳換算による自給率はわずか1%程度で、消費量のほぼ全量が輸入品および輸入品を原料とした加工品となっており、フレッシュ

ユ牛乳の飲用習慣は希薄とされている。同国における乳製品の主な輸入先はNZ、米国、豪州となっている。

タイにおける牛乳・乳製品の1人当たりの消費量は、生乳が前年比20%増の21.0キログラム、乳製品が同10%減の13.6キログラムとなっており、学乳制度の導入などにより増加傾向で推移している。また、牛乳・乳製品の輸出量は約33万トンとなっている。これは、豪州などから脱脂粉乳などの原料を輸入し、還元乳やれん乳などへ再加工の上、周辺国などへ輸出しているものである。

## (2) 肉牛・牛肉産業

アセアン諸国では、2003年から2004年にかけて鳥インフルエンザ(AI)の発生が確認された。このため、鶏肉需要の一部は他の食肉へ代替されたとしている。ただし、牛肉需要についてみると、1人当たり消費量は横ばいないし微減で推移しており、AI発生による鶏肉需要からの代替はみられなかった。アセアン諸国では、牛肉消費については、各国における食習慣や経済状況の影響が大きいものと考えられる。

### ① 肉牛の生産動向

2008年のFAOの統計によれば、牛(肉用牛・乳用牛含む)の飼養頭数は、アセアン諸国の中ではミャンマーが最も多く、次いでインドネシア、タイの順になっている。アセアン先進4カ国の肉牛の飼養頭数では、インドネシアが最大で、タイ、フィリピン、マレーシアの順になっている。

インドネシアの肉牛飼養頭数は、97年に過去最高である1194万頭を記録して以降、総じて漸減傾向で推移している。ここ数年は1000~1100万頭台で推移していたが、2008年は前年比6%増の1225万7千頭となった。地域別の飼養頭数は、首都ジャカルタのあるジャワ島が全体の約4割を占めている。また、同国では豪州などから肥育素牛を輸入して3カ月程度肥育した後、と畜に供するいわゆるフィードロッ

ト産業が盛んである。一方、水牛の飼養頭数は減少傾向が続いていたが、この間、水牛肉生産量(生体重換算)は4万トン台で大きな変化がないことから、水牛の飼養頭数の減少は、農作業の機械化による役用の減少が主な要因と考えられる。なお、2008年の水牛飼養頭数は、同7%減の193万1千頭となっている。

マレーシアの2007年における肉牛飼養頭数は、頭数が把握できる半島部においては、前年比18%増の80万9千頭となった。全国に占める半島部の飼養頭数の割合は、肉牛、乳牛を合わせた牛が9割を超えるのに対して水牛は6割となっている。水牛については、ボルネオ島部の飼養比率が高くなっており、主に役用に供される機会が多いためと考えられる。

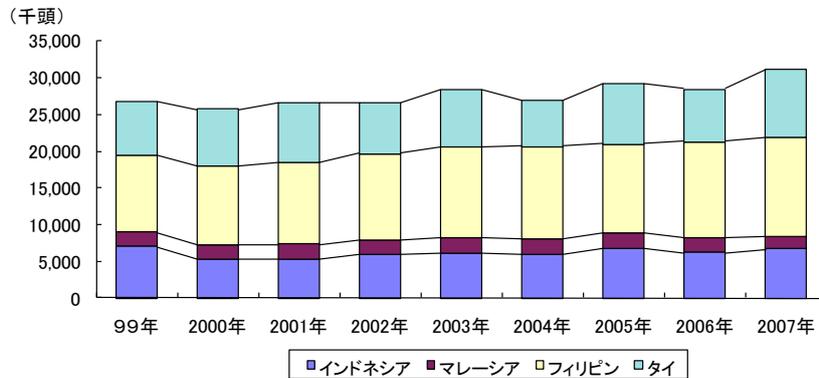
フィリピンの2008年の肉牛飼養頭数は前年同の256万6千頭、水牛飼養頭数は同1%減の333万9千頭となっている。豪州などから素牛を輸入する商業的なフィードロット経営も見られるが、牛・水牛ともに飼養頭数が20頭未満の小規模経営が全体の9割以上を占めている。このため、同国政府は農村部における零細経営の就労機会、収入の確保などを目的とし、新技術の普及促進、専門家の育成などの畜産振興策を打ち出している。同国では水牛の飼養頭数が肉牛を上回っているが、政府による振興政策などもあり、その飼養頭数はアセアン諸国で最大である。

タイの肉牛飼養頭数は、96年以降減少していたが、政府の肉牛振興政策などにより2001年からは微増傾向に転じている。2008年における飼養頭数は前年比3%増の911万2千頭で、水牛の飼養頭数は同14%減の136万頭となり、水牛肉を合わせた牛肉生産量は同6%増の15万8千トンとなった。アセアン先進4カ国のうち、タイだけは政策的意図により豪州などから生体牛を輸入して肥育を行うフィードロット経営が少ないことが特徴である。同国では、ミャンマー、カンボジア、ラオス、中国などの周辺国から生体牛輸入が増加しており、このうちミャンマーからの輸入が大半を占

めている。水牛については、同国でも役畜として供されてきたが、工業化の進展に伴う農業の機械化が進んだことに伴

い、飼養頭数は減少傾向にある。

図1 牛・水牛の飼養頭数の推移



資料:各国政府統計

表4 牛の飼養頭数と牛肉生産動向

	飼養頭数		牛肉生産量 (水牛を含む)	
	肉牛	水牛	前年比	前年比
インドネシア(2008年)	12,257	1,931	432	113
マレーシア(2007年)	809	131	34	108
フィリピン(2008年)	2,566	3,339	279	97
タイ(2008年)	9,112	1,360	158	106

資料:各国政府統計

注1:インドネシアの生産量は生体重換算。

2:マレーシアの肉牛の飼養頭数は半島部のみ(サバ、サラワク州含まず)。

## ②牛肉の需給動向

インドネシアにおける牛肉および水牛肉の1人当たり消費量は、牛肉、水牛肉合わせて前年比40%増の0.8キログラムとなった。同国における牛肉消費量は、ジャカルタなど一部地域に集中しており、また、食肉全体の消費についても民族・宗教によって慣習が異なることなどから消費動向における地域差が大きいとされている。

マレーシアでは、牛肉消費量に占める輸入品の割合が高いのが特徴であり、国内消費量に占める輸入品の割合は約8割とアセアン先進4カ国中最大となっている。牛肉の1人当たり消費量についても地域差が大きく、2006年における同

消費量は半島部が6.3キログラムとアセアン諸国の中でも突出しているが、ボルネオ島のサバ州では2.1キログラム、サラワク州で3.1キログラムとなっている。

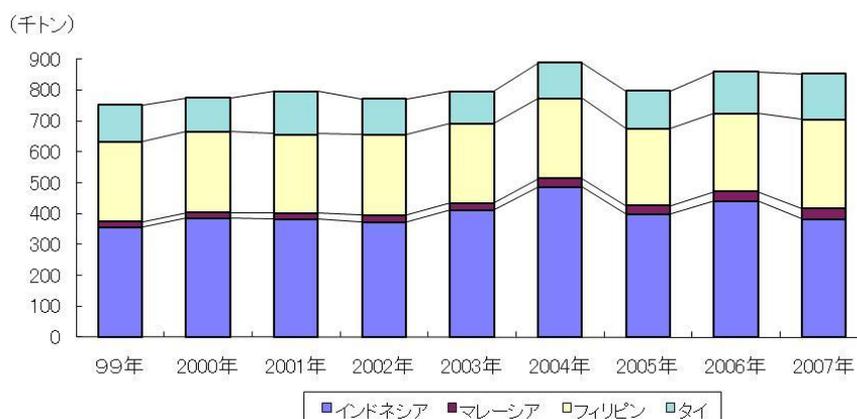
フィリピンにおける牛肉自給率は約7割で輸入の割合が約3割を占めている。同国の牛肉輸入量は、アセアン先進4カ国のうちマレーシアと同水準となっており、ブラジル、インド、豪州などからの輸入量が多い。2008年の牛肉および水牛肉の1人当たり消費量は、牛肉が2.3キログラム、水牛肉が1.8キログラムの合計4.1キログラムとなり前年並みの水準であった。

タイにおける牛肉および水牛肉の1人当たり消費量は、牛肉が2.27キログラム、水牛肉が0.36キログラムの合計

2.6 キログラムとなり、前年比 7% 増となった。牛肉の輸入量は6千トンとなっており消費量に占める割合は少なく、輸

入先はその大部分が豪州とNZとなっている。

図2 牛肉・水牛肉の生産量の推移



資料:各国政府統計

表5 牛肉の需給動向

国名	国内生産量	輸入量	国内消費量	輸出量	(千トン、kg)
					1人当たり消費量
インドネシア(2008年)	432	46	477	0	0.8
マレーシア(2006年)	32	116	146	2	5.5
フィリピン(2008年)	279	113	392	0	4.1
タイ(2008年)	158	6	167	0	2.6

資料:各国政府統計

注1:水牛を含む。

2:インドネシアの生産量は生体重換算。

3:インドネシアおよびタイの国内消費量は、「国内生産量+輸入量-輸出量」で算出。

4:マレーシアの輸出量にはサラワク州を含まず。

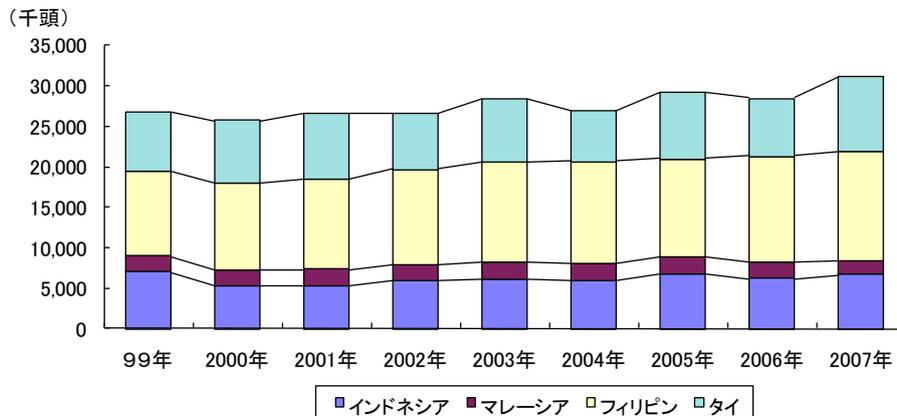
### (3) 養豚・豚肉産業

アセアン諸国では、インドネシアをはじめ宗教上の理由から豚肉を消費しないイスラム教徒の人口が多い。このため、国によって食肉における豚肉の重要度には大きな格差があり、国の政策上の位置付けもさまざまである。しかし、イスラム教徒の多い国においても、中国系住民などの豚肉需要をまったく無視することはできず、種々の規制は設けながらも養豚を許容している。

### ① 豚の生産動向

FAOの統計によると、アセアン諸国で豚の飼養頭数が最も多いのはベトナムで、2008年の飼養頭数は2670万1千頭と、フィリピンの約2倍の飼養規模となっており東南アジアでは最多である。同国では、畜産振興計画を策定し、豚などの増頭に取り組んでいる。しかし、飼料の約6割を輸入に依存しているほか、口蹄疫や豚繁殖・呼吸障害症候群(PRRS)などが継続して発生していることもあり、飼料の増産のほ

図3 豚の飼養頭数の推移



資料: 各国政府統計

表6 養豚の現状と豚肉生産動向

国名	飼養頭数	生産量 (千頭、千トン、%)	
		生産量	前年比
インドネシア(2008年)	6,838	210	93
マレーシア(2007年)	1,856	200	92
フィリピン(2008年)	13,701	1,606	99
タイ(2008年)	7,741	504	98

資料: 各国政府統計

か家畜衛生対策の強化が必要となっている。インドネシアでは97年以降、飼養頭数の減少が続き2000年には535万7千頭となった。しかし、98年後半にマレーシアの半島部諸州で豚のニパウイルス感染症が発生したため、シンガポールは同国からの生体豚と豚肉の輸入を全面的に禁止し、生体豚の輸入先をインドネシアのリアウ州に切り替えた。この影響などにより、2001年以降の飼養頭数はおおむね増加傾向で推移した。2006年は同国内でアフリカ豚コレラが発生した影響もあり、飼養頭数は621万8千頭と落ち込んだが、2007年は671万1千頭、2008年683万8千頭と増加した。

2007年のマレーシアの豚飼養頭数は、全体の約7割を占める半島部において、ウイルス性脳炎が98年から99年にかけて発生したため、大量と畜や廃業などの影響により、

99年の飼養頭数は240万頭台から130万頭台まで減少した。99年以降は回復に向い、ボルネオ島しょ部を加えたマレーシア全体の2008年の飼養頭数は、前年比10%減の186万6千頭となった。

フィリピンは宗教的な制約が少ないこともあり、東南アジアではベトナムに次いで飼養頭数が多く、94年以降、増加傾向で推移しており、2008年は同2%増の1370万1千頭となった。

タイは、ブロイラーに次ぐ輸出産業として養豚振興を推進してきており、97年には飼養頭数が1014万頭となりフィリピンを抜いたものの、98年以降は政策意図とは逆に、飼養頭数が増減を繰り返す状態が続いている。98年以降は、おおむね700万頭から800万頭台で推移しており、2007年

は 930 万頭と大幅に増加したが、2008 年には前年比 17%減の 774 万頭であった。

## ② 豚肉の需給動向

2008 年のインドネシアの豚肉生産量は、前年比 7%減の 21 万トン、フィリピンは同 1%減の 160 万 6 千トン、タイは同 2%減の 50 万 4 千トンとなった。

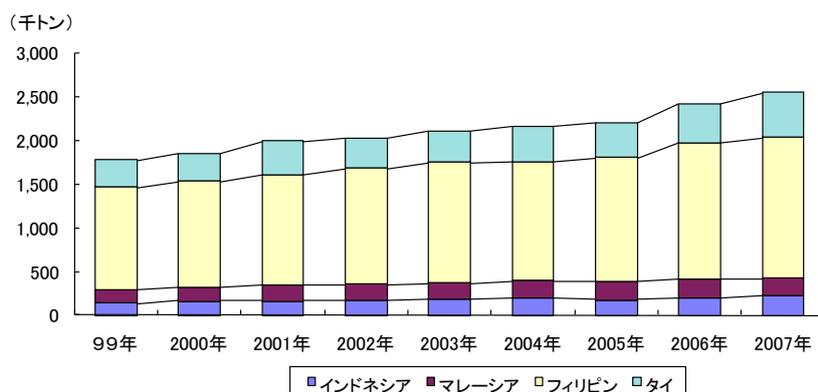
2008 年のインドネシアの豚肉消費量は、同 8%減の 21 万トン、フィリピンは同 1%増の 168 万 9 千トン、タイは同 2%減の 51 万 1 千トンとなった。

アセアン諸国における豚肉の消費動向は宗教の影響を強く受けており、2008 年の 1 人当たり豚肉消費量は、イスラ

ム教徒が人口の大半を占めるインドネシアが 0.2 キログラム、タイで 8.1 キログラムとなり前年を下回ったのに対し、食肉に関する宗教的制約の少ないフィリピンでは 19.5 キログラムで前年より増加している。

一方、マレーシアでは、イスラム教を国教と位置付けているものの、伝統的に豚肉食を好む中国系住民(非ムスリム)などが4割程度存在していることから、2006 年の 1 人当たり豚肉消費量は 8.4 キログラムとタイを上回っている。このうち、中国系住民などの非ムスリムにおける 1 人当たり豚肉消費量は 21.0 キログラムとなり、同国では鶏肉に次ぐ消費量となっている。

図4 豚肉の生産量の推移



資料:各国政府統計

表7 豚肉の需給の推移

国名	国内生産量	輸入量	国内消費量	輸出量	(千トン、kg)
					1人当たり消費量
インドネシア(2008年)	210	0	210	0	0.2
マレーシア(2006年)	217	4	224	2	8.4(*21.0)
フィリピン(2008年)	1,606	83	1,689	0	19.5
タイ(2008年)	504	12	511	5	8.1

資料:各国政府統計

注1:インドネシアおよびタイの国内消費量は、「国内生産量+輸入量-輸出量」で算出。

2:マレーシアの\*( )内は非ムスリム。

3:マレーシアの輸出量にはサラワク州を含まず。

#### (4) 養鶏・鶏肉産業

##### ① 鶏の生産動向

アセアン諸国では、ブロイラーの飼養が盛んであるが、在来鶏や採卵鶏、アヒルなどの家きんの飼養も盛んに行われている。ブロイラーや在来鶏、採卵鶏など鶏の飼養羽数は、インドネシアが最も多く、次いでタイ、マレーシアの順となっている。

2008年におけるインドネシアの鶏飼養羽数は前年比5%増の約13億4千3百万羽で、このうちブロイラーの飼養割合は約67%、在来鶏は約18%、採卵鶏が15%となっている。2008年の飼養羽数の増加は採卵鶏の大幅な増加によるものである。インドネシアのブロイラー飼養羽数は、2008年に前年比1%増の9億2百万羽であった。2008年の生産量については、同8%増の101万9千トンとなった。同国のブロイラー飼養羽数は、2003年に同6%増の約9億2千万羽となり、その後はAI発生の影響を受け大幅に減少したが、年々回復し、アセアン諸国では最多となっている。また、採卵鶏の飼養羽数は同3%減の約1億8百万羽、鶏卵の生産は同1%増の95万6千トンとなった。AIの発生による影響はあるものの、同国における鶏卵・鶏肉は安価なタンパク源として重要性は変わっていない。

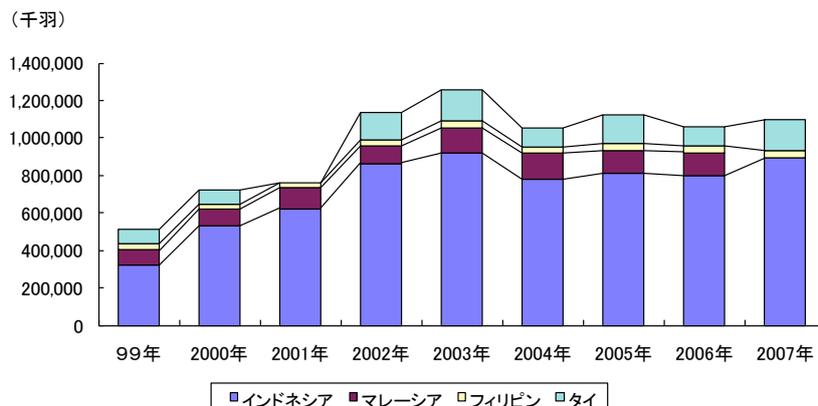
タイの鶏飼養羽数は前年比17%減の約2億3千6百万羽で、ブロイラーの飼養割合が約58%、在来鶏が約24%、採卵鶏が18%である。特にブロイラーの羽数の減少が大きかった。タイのブロイラーおよび採卵鶏の飼養羽数は、AIの発生した2004年以降の飼養羽数は大きな増減を繰り返している。ブロイラーについては、2004年が前年比38%減の約1億3百万羽、2005年が同44%増の約1億4千8百万羽、2006年が同32%減の約1億羽、2007年が同70%増の約1億7千万羽、2008年が同19%減の1億3千8百

万羽となっている。採卵鶏については、2004年が同14%減の約2千百万羽、2005年が同98%増の約4千百万羽、2006年が同28%減の約3千万羽、2007年が同67%増の約4千9百万羽、2008年が同17%減の4千1百万羽となった。また、2008年の生産量については、ブロイラー肉が同5%増の114万4千トン、鶏卵が同5%増の54万7千トンとなった。

フィリピンにおいては、鶏飼養羽数約1億5千4百万羽のうち約50%を在来鶏が占めており、ブロイラーの飼養割合は約34%と、在来鶏の方が割合が大きくなっているが、年々ブロイラーの飼養割合が増加している。フィリピンの2008年のブロイラー飼養羽数は前年比36%増の約5千2百万羽、採卵鶏の飼養羽数は同8%増の約2千5百万羽となった。生産量については、ブロイラーが同12%増の74万1千トン、鶏卵も同5%増の35万1千トンとなった。

マレーシアの2006年のブロイラー飼養羽数は、前年比3%増の約1億2千5百万羽であり、このうち半島部では約8割の約1億4百万羽が飼養されている。採卵鶏は前年同の約3千6百万羽となり、ブロイラーと同様に半島部で約9割の約3千2百万羽が飼養されている。2007年のブロイラーの生産量は同6%増の109万6千トン、鶏卵の生産量は同6%増の47万6千トンであった。

図5 ブロイラーの飼養羽数の推移



資料: 各国政府統計

注: データの制約のため、2001年のタイ、2007年のマレーシアのデータが欠損している

表8 鶏の飼養状況と鶏卵・肉の生産動向

(千羽、千トン、%)

国名	飼養羽数		生産量			
	採卵鶏	ブロイラー	鶏卵	前年比	ブロイラー肉	前年比
インドネシア(2008年)	107,955	902,052	956	101	1,019	108
マレーシア(2007年)	na	na	476	106	1,096	106
フィリピン(2008年)	25,200	52,200	351	105	741	112
タイ(2008年)	40,861	137,721	547	105	1,144	105

資料: 各国政府統計

注1: 鶏卵は1個 58gで換算。

2: フィリピンは地鶏を含む。

## ②鶏肉の需給動向

鶏肉消費に関しては宗教上の制約が少なく、東南アジアでは最も身近で重要な食肉となっている。

インドネシアにおけるブロイラーの飼養羽数はタイの約5倍であるにもかかわらず、ブロイラー肉の生産量はタイの約9割という状況となっている。この要因としては、インドネシアに限ったことではないが、ブロイラーを食鳥処理場で処理した場合には少額ながら課税や手数料徴収の対象になることやコールドチェーンが発達していないことなどにより、食鳥処理場以外で処理したり生きたまま販売したりするケースが多数を占めるため、かなりの生産量が統計で把握できないこと

が考えられる。したがって、食鳥処理場以外での処理が簡単にできる鶏肉については、インテグレーター市場の占有率が高いタイを除き、統計上から需給動向を正確に把握することは困難である。

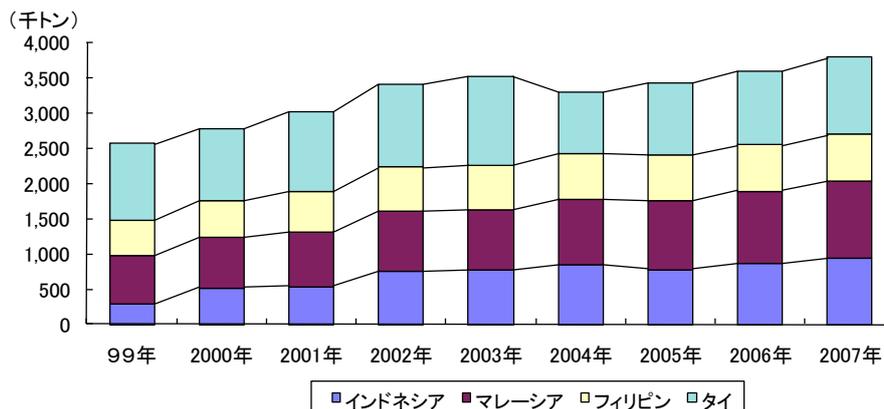
また、インドネシアとフィリピンは、在来鶏の飼養羽数が多く、価格はブロイラーより高いものの、一般には在来鶏肉の方が好まれる傾向がある。このことも、需給動向を詳細に統計的に捉えることが困難である一因となっている。

2004年1月以降、タイ産鶏肉の主要輸出先である日本およびEU各国が、相次いで同国からの家きんなどの輸入一時停止措置を実施した。その後、加熱処理された鶏肉調

製品については、主要国に輸入再開を認められたものの、非加熱鶏肉の輸入停止措置は継続して行われている。そのため、同国の輸出は非加熱鶏肉から加熱処理された鶏肉調製品へとシフトしており、冷凍鶏肉の輸出量は2003年では

37万1千トンであったが2008年には2万3千トンとなっている。鶏肉調製品の輸出量については、2003年の12万8千トンから2008年には36万トンへ増加している。

図6 ブロイラー肉の生産量の推移



資料: 各国政府統計

表9 ブロイラー肉の需給の推移

国名	(千トン, kg)				
	国内生産量	輸入量	国内消費量	輸出量	1人当たり消費量
インドネシア(2008年)	1,018.7	7.5	1,026.2	0.0	3.9
マレーシア(2006年)	1,095.5	20.7	828.7	5.4	31.1
フィリピン(2008年)	740.7	43.8	784.4	3.3	8.6
タイ(2008年)	1,143.6	0.3	1,120.6	23.3	17.7

資料: 各国政府統計

注1: インドネシアおよびタイの国内消費量は、「国内生産量+輸入量-輸出量」で算出。

注2: マレーシアの輸出量にはサラワク州を含まず。

### ③鶏卵の需給動向

アセアン諸国には鶏卵を粉卵や液卵に加工する施設がほとんどないため、市場動向に応じて価格が乱高下しやすい傾向がある。また、価格の変動に伴って生産量を調整する需給安定システムがうまく機能していないため、頻繁に供給過剰の問題を抱えることとなる。2008年の1人1年当たりの鶏卵消費量は、インドネシアが5.8キログラム、フィリピンが3.6キログラム、タイが8.0キログラムとなっている。

また、2006年のマレーシア1人1年当たりの鶏卵消費量は同3%増の15.5キログラムであった。

アセアン諸国では、タイとマレーシアを除き、鶏卵の輸出入の実績はほとんど無い。タイの鶏卵輸出量は、AIが発生した2004年は3千3百トンであったが、需給調整対策として輸出を奨励していることもあり、2005年には同101%増の6千6百トンとなり、2006年は同65%増の1万1千トン、2007年は同37%増の約1万5千トン、2008年は同64%

増の約2万5千トンと年々増加している。マレーシアの  
2006年の鶏卵輸出量は、約6万3千トンであった。

表10 鶏卵の需給動向

国名	(千トン、kg)				
	国内生産量	輸入量	国内消費量	輸出量	1人当たり消費量
インドネシア(2008年)	956.0	1.3	957.3	0.0	5.8
マレーシア(2006年)	449.6	1.5	412.2	62.7	15.5
フィリピン(2008年)	350.8	0.0	322.7	0.0	3.6
タイ(2008年)	546.6	0.0	522.1	24.5	8.0

資料：各国政府統計

注1：鶏卵は1個 58gで換算。

2：インドネシアおよびタイの国内消費量は、「国内生産量＋輸入量－輸出量」で算出。

3：マレーシアの輸出量にはサラワク州を含まず。